

ボケットジャーナル



★第12回六甲山マラソン大会開催される

詳細は神戸市教育委員会体育課まで。

県民のスポーツ振興をはかることを目的とした恒例の六甲山マラソン大会が今年も8月25日、午前10時より開催される。このコースは新緑に包まれた六甲山ドライブウェイを走る快適なコースで、しかも起伏、曲折に富み、選手の強化育成には絶好の条件を備えたもの、年々参加者も増え、去年の出場者数は、七六九名にもふくれ、北は秋田から



新緑を背に懸命に走る選手

南は鹿児島までの広地域。距離別の他、体力づくりの一環として老壮年の部、女子の部が設けられている。



松岡 寛一さん

今夏も8月1日、11日まで開催されます。立

山をバックに山歩きしながらスケッチを楽しめる企画で、要項は次のとおり。

期日 第1回8月1～4日
第2回8月4～7日
第3回8月8～11日

定員 毎回20名

会費 一日2800円(泊3食・講習料とも)

場所 ロッジ立山連峰(現地集合・解散)

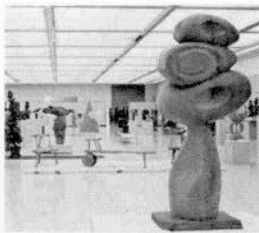
講師 松岡寛一画伯(洋画家・無所属)

集合 第一日目の午前中にロッジに到着のこと

お問い合わせは「山と溪谷社トラベル部」☎03-4336-4021又は松岡寛一☎078-1221-7950まで。

★現代彫刻の5人

戦後の日本の近代彫刻をリードしてきた人達、植木茂、佐藤忠良、舟越保武、堀内正和、柳原義達の5人の作家の彫刻とデッサンの代表作計一三六点が、県立近代美術館で展覧されている。(六月十二日～七月十八日)5人共、一九一〇年代に生まれ現在も第一線で活躍する同世代の作家で、具象から抽象まで、いろいろの傾向を代表して、しかもその水準を着実な歩みの中で高めて今日に至っている作家達。植木氏は、木の



「現代彫刻の5人」の会場風景

彫のミニュメントを佐藤氏は女性像を、舟越氏は宗教性豊かな作品を、堀内氏は風で動くユニモラスな作品、神戸出身の柳原氏は面を重んじる作品をとそれぞれ傾向をみせている。まとまった形で彫刻家達をと

誕生日 ありがとう

運動



市民の福祉講座

本運動が毎年夏に開いている福祉講座は、本年は、左のような要領で行ないます。

テーマ 共に育つ福祉社会をめざして

日時 七月二十五日(日)

場所 西宮医療会館(西宮市江上町三の四〇)

定員 百五十名

参加料 三百円、中・高校生百円

日程 午前 講演「地域と障害児者教育」信楽青年寮長 池田太郎

意見発表 親とボランティア

A「何かやってみよう」と思っている人に。

B障害児をもつ親と手をつなぐために

Cふれあう子どもたち(統合教育)を考える。

D障害児と地域社会を考える。

E障害児の将来を考える(成人問題)

F主婦とボランティア活動。

G中・高校生とボランティア活動

HPTA・母親学級と障害児問題

主催 西宮心身障害対策市民懇談会、西宮市手をつなぐ親の会、誕生日ありがとう運動

申込み 当運動本部まで

誕生日ありがとう運動本部
神戸市葺合区御幸通八の一の六
神戸国際会館一階の郵便局の前
電話二五一八一六一内線三一六

りあげるといふことが少ないだけにこの特別展は現代彫刻の歩みを展望しようとする試みが感じられる。

★重森守氏の「太陽の墓場」が刊行される

月が、二つに見えたりといふ書き出しで始まる長編問題小説「太陽の墓場」。

(本誌に昨年十二月まで連載された「まだ遅くない」が改題)戸波峻という一人の新聞記者の赤裸々な生活と眼を通して地元公害企業



太陽の墓場

と戦う一支局の物語をシリ阿斯なタッチで描き、連載中から人気の高かった小説だけに、一気によめるドラマティックなストーリーは改めて面白いもの。現アサヒファミリア編集長の重森守氏が本名で(本誌連載中は葉月一郎のペンネームだった)書いた「太陽の墓場」はベストブック社刊六百円。なお7月17日に生田神社にて出版記念会が開かれる。

★ナウ異国——そして神戸 青い海に白い帆船。さわやかな日本丸の神戸入港風景。



朝日放送スタジオで

景。そして神戸まつりの暴走族事件の翌日、平常にもどったフラワロードを走るオートバイ。6月3日午後11時、朝日TVのナイト&ナイトで紹介された神戸特集は、フレッシュなアングルと構成で神戸の新しい魅力をひきだした。

△ゲストに、ジャンメルオー神父サノへの菅原専務、本誌小泉美喜子が出演。

★ステキなあなたのマナー

神戸女子大学、神戸女子短期大学の学長行吉哉女さん(72)が、女子大にいて若い娘に接したときに出あった家庭教育のしつかけの欠かに、これでよいのかとこのほど長い教育者としての人生経験をもとに「ステキなあなたのマナー」を題し



上は行吉哉女さん 下は本のカバー

て、この頃思うこと、これからの心がけと、意見と実際をこまやかに、きびしく書きまとめ、KKカイガイ出版部から発刊した。マナ

—はその国の文化の表現で、国際的な交流の多くなつた日本の将来にかかった問題と真だ剣。しつけ、マナーとはなになのかを考え身につけるための好著。

★ふるさとの歴史を歩く

「兵庫史探訪」発刊 兵庫県下の風土や遺跡、そして人間を見た歴史物語がNHK神戸支局の編により出版された。

この「兵庫史探訪」は、

昭和49年3月から放映された「兵庫史探訪」(NHK神戸支局制作)で紹介された「郷土」を杜山悠氏、荒尾親成氏、春木一夫氏ら番組出演者の歴史的推理と証言を再録しての編集。「純友叛乱す」「海軍操練所」から宝塚歌劇の「レビニョー誕生」まで写真を多く使つてわかりやすく、二十項目が収められている。

我々が郷土の埋もれた歴史を知る時に、地域に生きる喜びが生れる。

兵庫史探訪日本放送出版協会発行 一三四頁、一〇〇〇円

★芝居に興味がある人に

七月一日より、神戸市民大学講座が「芝居の手帖」というテーマのもとに、神戸市民大学会館(生田区北長狭四丁目一八〇331-4319)で毎週講師を招いて午後六

美術ガイド



★兵庫県立近代美術館 特別展「現代彫刻の5人」

6/12/7/18

76 県展兵庫県立近代美術館名品展

7/31/8/15

★南蛮美術展

近代日本銅版画展 6/25/7/25

★白鶴美術展

九月十四日まで休館

★雪雲美術展

九月中旬まで休館

★さんちか広場

さんちかバリ祭フランス展

7/8/17/13

神戸青年会議所チャリティーパサ

7/15/17/20

さんちか塚山まつり

7/22/17/27

こうべ芸文美術展 7/29/17/3

★ギャラリーさんちか

7/8/17/13

6 第6回幼児画展 7/15/17/20

一書会創立20周年記念絵画展

7/22/17/27

こうべ芸文美術展 7/29/17/3

★大丸神戸店四階美術画廊

各務クリスタルガラス工芸作家展

7/8/17/14

世界のガラス工芸コレクション

7/15/17/21

永沢永信陶芸展 7/22/17/28

★KCCアートギャラリー

女流2人展(陶芸・彫金)

7/13/17/25

創造美術協会々員菅原洗人展

7/29/17/11

★KCCギャラリー

甲南大学陶芸研究会展

7/2/17/8

松井香瑤熟日本画展

7/9/17/15

神戸女子大学写真部展

7/16/17/22

KCC 教室作品展第12部

7/23/17/31

時から二時間開かれる。日程と内容は次のとおり。

- ①七月一日「芝居の歴史」 愛媛大学教授 守屋 毅氏
- ②七月八日「芝居の舞台」 県立兵庫高校教諭 名生昭雄氏
- ③七月十五日「芝居の文化」 劇団神戸 夏目俊二氏
- ④七月二十二日「芝居の裏方」 神戸国際会館大ホール課長 森田剛彰氏
- ⑤七月二十九日「芝居のみどころ」 神戸文化ホール館長 松井一郎氏

★秋のパーティに備えて着つけをマスターしては？
「第2回蘭きもの着付教室」が今年も神戸オリエンタルに於て開催される。これは短期間でマスターできる集中夏期講座で、一週間

花時計



★大阪の「文化会議」

6月5日(土)の朝日新聞朝刊第一面で大阪商工会議所が主催した「大阪都市文化会議」の結果がまとめられている。この文化会議のテーマは「都市の復権」その会議の末、提言がまとめられた。①



第1回着付教室風景

情報化時代の国際都市の自覚に立って、それにふさわしい、市民生活をデザインするため、早急に具体的な努力を始めるべきである。②情報化と国際化に寄与し得る画期的な文化機関と施設群をつくるべきである。③新しい時代の大阪を支える人材を育成導入するための具体策を立てるべきである。という提言。「文化音痴あきまへん」というタイトルがつけられている。つまり大阪は西日

お問合せ・聞きもの総合学理事務局078・593・1750

★西洋骨董市にファンが

六月十二・十三日の二日間神戸外人クラブで「ヨーロッパ・アンティークフェア」がアルファキニビック神戸(嘉納千代子)2425052の主催で開かれ、欧風アンチックファンがショッピング。神戸らしい催。



平野さん(左)と嘉納さん(右)

本の要の都市として君臨してきたが、いま、高度成長時代の転換のとき、低成長期を迎えて、やはり文化の底辺をしっかりとさせなければ情報化時代に対処できないことに気がついた。

だから大阪商工会議所が思い切った文化会議を展開した。そして前向きに問題に取り組む姿勢を見せている。道は遠いがやはり大阪は立派だと思ふ。「文化音痴あきまへん」という言葉はそのまま神戸にも通じる。(K)

● KOBÉ POST

★本誌「動物園飼育日記」に執筆中の亀井一成さんが七月二十日すぎから王子動物園々長と共に、キリンを連れて中国・天津市へ行かれます。頑張ってください。

★鯉の糸平のご主人、鎌田糸平さんが、今年もパリのダンカン画廊(セーヌ河左岸)で水墨画の個展を開催します。八月十八日から二週間の予定です。

★書家の望月美佐さんが、七月一日から二十日迄、ソ連文化省主催の「アンサンブル日本」第2回公演のため、墨一〇〇キロを送り、大筆をたずさえて、昨年のリガ・神戸市の文化交流以来、二度目のソ連行き。



モスクワのロシア劇場、リガ、キエフの豪華ホールで、日本の書を、津軽三味線との出会いの中から、「動の書」を紹介。二〇数回の公演に身体が持つかしらとタフネス美佐さんが心配しながらの訪です。能と書の出会いに挑戦していた美佐さんが、また今度の舞台で、ショーのなかで見せる躍動と流麗な書の日本美を紹介し、新しい世界を創りだすか期待されています。ガンバレ美佐さん!



おしゃれ貴族

1周年

おかげさまで1周年を迎えました。

これからもよろしくお願いたします

夜に咲く薔薇は

あまく、せつなく

華麗な香りを放つ

〈レディスタイム〉

女性のために

捧げる甘美な

おしゃれ貴族の

ひとときは〈午後8時

〜12時〉

一輪の薔薇〈指名制〉

との出会いから始まる

nightin



おしゃれ
貴族



神戸市生田区中山手1丁目24ノ7

■おしゃれ貴族でアルバイトをご希望の方はご連絡下さい

TEL 078 (241) 0980 (242) 1925

大和ナイトプラザBF

PM 6:00~PM12:00

鍋島バンド

三田村バンド 連夜演奏中



グラン・パレ

□ひとり歩きのためのヨーロッパの美術館〈6〉

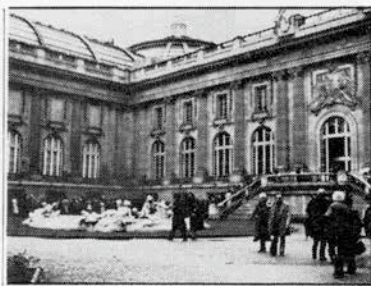
花の都の 印象派画家 (下)

伊藤 誠

〈神戸新聞文化事業局第一部長〉

一九七四年秋、パリのグラン・パレ(大宮殿)美術館ですばらしい美術展が開かれた。一八七四年の春、パリのオペラ座にほど近いキャプシーヌ大通りにある写真家ナダールのスタジオの二階で開かれた新しいグループの美術展が「印象派」とあだ名され嘲笑の的となりながら結果的には近代絵画の発表を告げる第一回印象派展となったことは前回にも書いたが、今度の美術展はそれからちょうど二世紀たったことを記念する「印象派一〇〇年展」である。近代美術にとっては世界的に意義ある年だけに、日本でも小規模ながら同タイトルの美術展が開かれた。しかし、さすがは本場フランス。印象派各作家の代表作と見なされるものを、印象派美術館を中心とした国内はもちろん、ソ連、ベルギーなどのヨーロッパ他国、それにアメリカ―特にニューヨーク・メトロポリタン、ボストンの両美術館に重点を置いて、名品を集めたのである。

この時期、仕事の都合で四、五日パリに滞在する機会を得た。まさに千載(百載?)一遇のチャンス。仕事の合い間を見ては二、三度グラン・パレへ出向いて



「印象派100年展」を見るために出来たグラン・パレの人の列

黄金に対する興味というものは東西規を一にするものなのだ、と感心した記憶がある。今、それを上回るような大観衆が、印象派作家の展覧会へ集まって来ている。一〇〇年前、嘲笑と軽蔑で迎えられたと同じ内容(厳密に言えば、何年間かにわたる作品からの選択だけに、中味は幾分違うけれども)の展覧会へ。歴史の皮肉? とまかく、私とて見落したくない。明日はパリ出発という日、覚悟を決めて列にならんだ。

みたが、これがいつ行っても入場待ちの長蛇の列。一時間ぐらい待つつもりでなくては……という話に、かんじんの鑑賞時間をプラスして考えると余裕が取れず、すこすこと引き返さざるを得ない始末。こんな場合は、大きな美術展のしょっちゅう開かれるパリでも珍しいことだと聞いた。私個人の経験としては、初めてこのあこがれの街へやって来た一九六七年の夏、グラン・パレのちょうど向かい側に建っているプチ・パレ(小宮殿)美術館でツタン・カーメン展が開催中で、これを見るための人たちがグルリと同館を取り巻いているのに出くわし、同じツタン・カーメン展の日本での情況と思ひ比べてみて、

内容はさすがにすばらしかった。私には初対面の作品もたくさんあって、心踊った。しかし、多少物足りなさが残ったのも事実だ。これはいささかぜいたくな願ひではあるうがと分かった上での、しかも「印象派一〇〇年展」なる催しはパリでこそ最高のものが出来るはずだと思いたいが故の物足りなさである。その第一は、もっと作品数が欲しかったこと。世界の各地から集めただけに、それぞれ名作には違いないのだが、油絵点数四十一点は印象派をたんのうするには問題があるう。もっとも、作品を部分拡大して特徴を示すパネル写真や、第一回展に出品した作家と、その主要作品を可能な限りモノクローム写真で紹介する展示など、作品以外に工夫をこらしての会場構成はかなりの努力の跡が見られ、感心したものだ。

物足りなさの第二は、これは個人的な好みの問題になるかも知れぬが、作品のセレクトに関して。一つの美術展を企画し実現するについては、表へ出ない大変な苦勞のあることを及ばずながら分かっているつもりだけに、作品選択のむつかしさも理解はできる。しかし、具体的に私の引っかけた不満は、マネに関して「草上の昼食」も「オランピア」も共に外されていたことだ。印象派美



プチ・パレ

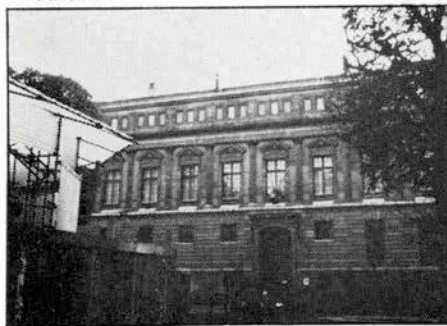
術館から不出品ならともかく、かなりの点数が選ばれているのに（これは当然のことだろう）なぜ、印象派グループ結末に功のあつたマネのいずれか出ないのか、これは大いに不満であった。（マネについては後ほど触れたい）因みに、この一〇〇年展にナマ

の油絵がならんだ作家は、バジール、ブーダン、カイユボット、カサット、セザンヌ、ドガ、ギョマン、マネ、モネ、ベルト・モリゾー、ピサロ、ルノワール、シスレー。数えて十三人。偶然ではあるうが、ヨーロッパでは忌み嫌われる数だ。どういふことなのだろう。もちろんこの十三人が印象派展初期の重要メンバーには間違いのないのだが、参考までに、小規模ながら日本での一〇〇年展出品者数は二十五人であった。

もう終わってしまった美術展に多少こだわり過ぎた感じがするが、要はグラン・パレでは次々とすごい企画展が行なわれているということだ。印象派の画家に關しても、今後個人展の開かれる機会はふえるに違いない。常設のルーブル、印象派、国立近代の三館ともども、パリの土をふんだら必ず行つてほしい美術館である。地下鉄一号线ジャンゼリゼー・クレマンソー駅下車。地上へ出たらすぐ目の前に建っているから迷うことはない。ここでは各種公募展なども併行して行なわれており、フランス画壇現況の一端を知ること出来る。が、概してここでの公募展は保守ムードが強く、というか無気力傾向で、パリ市立近代美術館を根城とする前衛系グループ展とは対照的。時間のつごうで公募展の方は必ずしもものぞく必要は無い。

グラン・パレまで出向けば、先にもちよつと触れたとおり、向かい側がプチ・パレ。この常設展示で注目すべきは、写実主義絵画の驍将クールベの作品群だ

パリ国立図書館





マネ「草上の昼食」

「印象派画家の版画展」この国立図書館

が、印象派関係でもセザンヌ、ルノワール、ロートレック、ルドンらの作品があつて愛好家には見逃がせない。ある時、パリ在住の日本人女流カメラマンとこのプチ・パレへ同行したことがあつた。街なかの案内とは攻守所を変えて館内では当方が説明役を買つて出たが、一巡し終えて彼女はしみじみ言ったものだ。「ルドンのパステル画つて本当に美しく、すばらしいですね。他の画家の油絵にも決して負けていないし」——日本では直かに余り接しられないが、画集その他でご存知の方も多いであろう、ルドン独特の幻想世界。その色彩は明るくきらびやかで、しかも物悲しげに幽婉。女性、特に光と形の把握にたずさわる彼女のような立ち場の女性は文句なく魅かれるだろう。そう言えば、パステル画が堂々とその位置を確立したのは印象派の画家たちによつてである。ドガ、ルノワール、ロートレック、そしてルドン……。

印象派発

足一〇〇年の記念すべきこの年は、パリでもいろいろな企画が持たれたらしい。たまさか私が出会えたもう一つの記念展

はパリ国立図書館の

「印象派画

家の版画

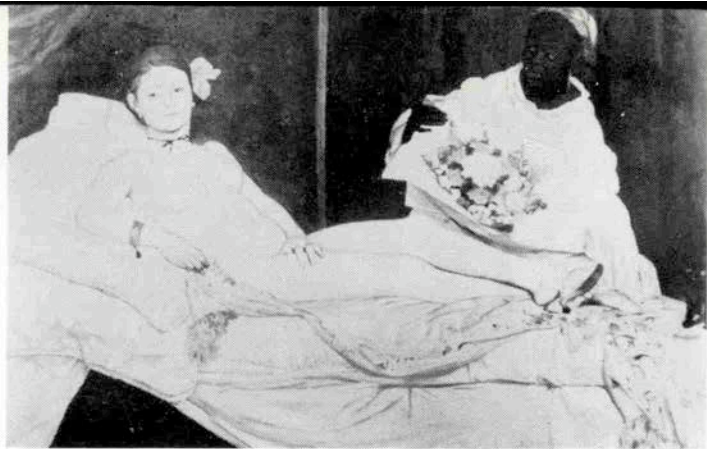
展」この

国立図書館

は、外国観光客なら必ず通るオペラ座通りの一つ東側の通りにあるから分かりやすい。道幅もせまく人影も多くなく、幾分裏通りめいているけれど、館の前にちょうど小公園があるから目印しになる。図書館ではあるが、館内の展示室はちよつとした小美術館。ここに約三六〇点の版画、デッサン、原書類がならんだ。版画とその元になつたデッサンとの対比、同じ構図を二度、三度と作り直して行く過程、影響を受けた先達の版画との比較（例えばゴヤとマネ）作品と原版との併置等々（印象派の連中が影響を受けたという日本の版画もあつた）。特別企画展だけに、いつ行つてもこれだけのものが見られるわけではなからうが、全部この図書館の所蔵品というから、希望すれば閲覧は可能。

「花の都」の印象派画家を締めくくるに際して、マネにちよつと言及しておきたい。前回印象派美術館には大勢の画家の、多様な傾向の作品がならんでいるから、あらかじめ好みの一人の画家へ焦点を定めて鑑賞するのも一法、と申し上げた。しかし、あらかじめ決めて行くのもいいが、その場での出たとこ勝負も面白い。事実、陳列作品も時々変わつていくようだから、館内一巡ののちその時一番魅かれた画家のものを集中的に見ればいい。最初、グラン・パレの大展覧会に油絵が四十一点とはけしからんと文句を言ったが、本当は四十一点でも、それじつくり見たらぶつ倒れてしまうかも知れないのだ。まことに欲ばつたもの言いで少々恥ずかしい。しかし、滅多にない機会なのだからドン欲にならう。

実は、印象派美術館で私が一番魅かれていたのがマネなのである。もう数回同館を訪れたが、これは変わらぬ。その理由は「草上の昼食」と「オランピア」だ。一度「草上の昼食」がどこかの企画展へ借り出されて、いつも作品が掛かっている壁面が目をむいていたことがあつたが、その時はガックリと来て、やがて次第に腹が立ち「こん畜生！ 印象派美術館のバカ野郎！ インチキ



マネ「オランダ」

絶対マネの「草上……」と「オランダ」。

このマネの二点が発表当時(草上……)は一八六三年の落選画展「オランダ」は一八六五年のサロン(スギヤンダルをひき起こしたことは前回にちよつと触れた。

「絵画の冒瀆だ」「娼婦をサロンへ持ち込む気か」等々の非難。それにもかかわらず、いやそいう驚きを人々にもたらす新しい技法と内容を持っていたからこそ、近代美術史に不滅の位置を占める名作となったことも申し上げた。この二点はともに一八六三年の仕上げで、モデルはマネお気に入りのピクトリーヌ・ムーラン、当時十六歳。「草上……」を展示して非難を受けるであろうことはマネ自身覚悟していたと友人が証言しているが、さすがにたまたまれず陳列後旅行に出ている。にもかかわらず火の手が薄らいだと思われる二年のちダメ押しするように「オランダ」を、招待されたサロンへ出品した。彼はやらねばならなかったのだ。古びた権威への反逆。

めノ」と怒鳴りたい気持ちになつたことだ。モノもいい、ドカだってすばらしい、ゴッホ、ローレン、ローレン、すごい画家たちだ、ましてやセザンヌ、ルノワール。しかし、この美術館では

彼は近代絵画への窓を、単身で無理矢理こじあけたいといった感じである。(もつとも、彼自身はあくまでも伝統の継承者をもつて認じていたようだが……)

実は、このマネの覚悟に日本の浮世絵がかなり影響しているはしまいかと私は考える。印象派のメンバーが浮世絵から感化を受けたことはすでによく言われている。しかし、それは主に技法とそれがもたらす魅力に関してだ。マネも浮世絵自体を画面に描きこむほど魅かれていたようだが、技法以上に彼は浮世絵の庶民性とその奥にひそむものに目をつけたのではあるまいか。つまり浮世絵の美人画に顕著なように、芸者、水茶屋の女といったいわゆる「泥中の蓮」に照明を当て、これを「美の典型」に仕立て上げた庶民の知恵、バイタリティ、反骨精神に、である。そして彼の精神的系譜は印象派でも傍流と目されるドガ、ローレンックへと続く。

さて私、あの二点に魅かれる理由。その歴史の意義はいうまでもないが、まず裸婦像を描いての気どりの無さ。そして画面の裸婦像にただよう一種未成熟の美しさ、にもかかわらず併存する小悪魔的誘惑ムード、まだ青臭さの残るエロチシズム、これには彼女の澄んだ瞳が大きく作用する……。どうもうまく説明できないけれど、要するに男性にとつて女性がいかにすばらしい存在であるかを再確認させてくれるのである。

貴男も貴女も、せっかくヨーロッパへ行くからには私に負けぬ「恋人」？を掴んで帰って来て下さい。

△作品以外の写真も筆者▽

印象派美術館の展示室



★神戸っ子 トラベルコーナー

神戸っ子海外旅行ご案内

★ 野生アフリカとの出会い

東アフリカ・サファリ

1976年12月30日～1977年1月14日<16日間>

募集人員/12名 福岡康年と共に

総費用/¥594,000 <アフリカスペシャリスト>

12月30日 東京発

12月31日 ナイロビ着

ナイロビナショナルパーク

1月1日 ツアボNP着 モンバサロード
ナショナルパークツアボ・ウエスト
へ

1月3日 レーニマニアラ着

キリマンジャロの初日

1月4日 レーク・マニアラ着

ゴロンゴロの野生動物

1月5日 セレゲンティ

1月7日 マサマイラ着

1月8日 ナイロビ着ナール湖他

1月13日 ナイロビ発→東京

お問合せ、ドットウェルトラベルサービス神戸

TEL 078 (251) 0021 担当島村

★ 香港4日間

出発日/7月18～21日・7月30～8月2日

費用/¥68,000 (大阪発)

毎朝食と夕食2回香港島観光、宿泊費を含む

★ 米国建国200周年シリーズ

①ハワイ6日間

日程/8月22～27日 (大阪発)

費用/¥148,000

ウェルカムランチのみ、オアフ島観光、宿泊費

②米西海岸8日間

日程/8月23～30日 (東京発)

費用/¥229,000

ホノルル、サンフランシスコ、ロスアンゼルス
各2泊

上記コースのローン取扱いについては、ハワイコ
ースは頭金50,000円、西海岸コースは80,000円で
す。

朝日海外旅行株式会社 078 (391) 2231

★ アメリカ西海岸1週間

日程/9月15日～21日 (東京発)

費用/¥168,000

ロスアンゼルス→サンフランシスコ

★ マニラ4日間

日程/9月10日～13日 (大阪発)

費用/¥98,000

★ バリ・ローマ8日間

日程/10月9日～16日 (東京発)

費用/¥268,000

★ ハワイ6日間

日程/9月16日～21日 (大阪発)

費用/¥138,000

お問合せ、お申込みは神戸っ子トラベルへ

★ トップレディスヨーロッパツアー

日程/11月6日～18日 (13日間)

アテネ→ハンブルグ→コペンハーゲン→パリ

費用/¥450,000

申込金/¥50,000

A B C モーニングワイドショー土曜日の朝に
でおなじみの細川先生と一緒に

ジェット・トラベル・サービス 06 (365) 5234

★ ハワイ6日間

日程/9月8日～13日

費用/¥138,000

大阪→ホノルル→大阪

★ 南十字星の輝く魅惑の島一泊り島

日程/9月14日～17日

費用/¥98,000

★ 哀愁の欧州を訪ねて

日程/11月19日～27日

アムステルダム (1泊) ブラッセルを経て一

泊 (3泊) →ローマ

費用/¥275,000

近畿日本ツーリスト株式会社 078 (391) 2401～3

★ モスクワ・レニングラード・リガツアー



日程/7月23日(金)～8月6日(金) [15日間]

費用/¥388,000 ホテルファーストクラス

東京→モスクワ→レニングラード→リガ→モ
スクワ→ハバロフスク→ナホトカ→客船「プリ
アムーリエ号」→横浜

日ノ協会兵庫県支部連合会 (078)331-6093

お問合せ、お申込みは神戸っ子トラベルへ

TEL 078 (331) 2246

KE 小泉パーティのご案内

★結婚を希望する男女に交際のお場を提
供し、良きパートナーを見出すお手
伝いをいたします。

★会員相互の理解を深め、親しみを増
すための家族ぐるみのパーティを開
催いたします。

★結婚に関する一切のコンサルタン
ト、カウンセラーにも応じます。

★入会金及び年会費は

・入会金 10000円

・年会費 10000円

ご連絡・お問い合わせは

神戸市灘合区浜辺通6丁目3-13 ニューポート

ホテル11F 1131号 ☎078-252-1380

■小泉パーティ事務局 毎月曜休・10:00～18:00

★小泉パーティ美術愛好会発足

小泉パーティはユニークな交際のお場
を提供することに努力いたしておりますが、初の試みとして美術に興味
をお持ちの方に交際のお場として美術
愛好会を元町画廊さんを初めに神作
家の諸先生の御協力を得まして発足
することになりました。一般の方々の
参加も歓迎いたします。お申込は
葉書又は電話で当事務局へ。

潜り戸を通して
“花”のおふくろさんの味を



- 今月のおこんだて ●
- 花そうめん 400円
 - たかのり弁当 900円
 - 木の芽あえ 450円



和風季節料理

花

11:30AM~8:00PM 月曜日定休
さんプラザ地階 ☎ 331-0087

爽やかに夏を飲みほそう!



スカイサントリー

三宮・交通センタービル

☎ 391-3705

国鉄、阪急、阪神の各三宮駅と直結しているのでオフィス帰りや待ち合わせに便利です。月1回、アトラクションがありますが、普段は静かな雰囲気の中で飲めますし、料理は9階のレストランから運んでますので味には自信があります。雨の日は9階のバブをご利用下さい。9月10日まで。5:00PM~9:00PM (8月14日までは9:30PMまで)

帰宅

谷原 幸子
え・西村 功



木原時計店へ行ったのは、雲の多い午後だった。店内に客は無く、正面のショウケースの向こうで、若い男女の店員がひそやかに話し込んでいた。百合の動きをさりげなく目で追いながら、彼等の談笑は夥しい時計のセコンドの音に程よく溶け込んでいた。

百合は、興味の無いままに指輪やネックレスを眺めながら、こんな重苦しい天候の日に馴染みのない店へ季節外れのサングラスを買いに来たことを悔やんでいた。

百合の家と同じ町に以前住んでいた人が、大阪市内で

時計屋をしていて、その町の者が行くと安くしてくれるという噂を百合は母から聞いたことがあった。その一家が、戦争末期に家を人手に渡して、わざわざ空襲の危険の多い市内へ出て行った時、町の者は決して親切ではなかった。と、母は苦笑していた。百合は、ふと、その店でサングラスを買おうと思った。それで、ゆうべ母に店の場所をたずねてみた。

「この夏一つ失なつたでしょう。いいのが欲しいのよ。目が弱いから海へ行くのにどうしてもいるの」

「今頃、海へ行くの」

母は、人伝に聞いた店の場所を教えたあと、何かを感じたように、ふと百合を見た。

「お前、どっかへ行くのかい」

「ちよつとね。あした、友達と近くの海を見に行くだけ二時間もあれば行けるとこよ。足の向くままに民宿へでも泊ってみようかと思って……秋の海もいいわよ。でも今度は出来るだけ節約ムードで行く積り。だから、眼鏡一つでも安く買いたいの」

「それもいいけど、隣りはまだ壁塗りが残っているのやろ」

母も百合もなんとなくその方向へ顔を向けて、ふうと息を吐いた。

庭続きの古い二階家は、祖母の隠居所だったが、三年前に祖母が死んだあとは戸を閉めたままだった。戦争中に乏しい資材で無理をして建てた家だから、建付けが悪く、痛み方もひどかった。その家に、急に兄夫婦が住むことになったのは、思いがけない不意の大阪転勤のためであった。

兄は、便利な社宅へ入る積りでいたが、母屋の方も随分荒れているし、母の神経痛は立居も不自由なほどひどくなっているの、いづれ母屋をすっきり建て直し、母と住むことに決めて、取りあえず空いている隠居所の方へ落ちつくことにしたのだった。

とにかく、荒れ果てた古家の応急修理を急がねばならなかった。兄嫁の実家からも両親が手伝いに来た。兄はこの古い隠居所を母屋を建て直した後は取り壊す気であるので、専門の職人を雇う気など無く、引越荷物が入って、どうにか当座の生活が出来ればよいと考えていた。

兄嫁のみほ子と、彼女の父親は剥げ落ちた壁の塗り替えに掛った。母親は、家中の襖や障子の張り替えを引き受けた。百合は、何一つ手助けが出来ない母の代りに、会社から帰ると壁塗りを手伝うことにした。みほ子が、近くの建材屋で買って来てバケツに溶いた材料を鏝に取

って、古い壁に塗り付ける作業は思ったよりも骨が折れた。百合は、目立たない便所の脇の壁を引き受けたが、鏝の使い方で、塗り付けた材料がずると落ちて来て、一度離れた材料はもう使えないのだ。

「百合さん、悪戦苦闘のようですね」

本職のように手際よく襖紙を切り揃えながら、兄嫁の母親が笑う。こんな、楽しい仕事って、そうありませんよ。などと言いつつ腰が痛い、少し大仰に叩いてみたりする。母屋から出て来ない母への当てこすり取れなくもない。父親の方は、百合を全く無視していた。壁材、買いに行く度に値上りしてるのよ。と、みほ子が言う。壁材の匂いに酔って、その夜も百合は母屋へ引き上げた。

「百合もあの引越しには疲れたわね。気晴しに出かけるといいわ。隣りは、まだまだ片付きそうもないし、みほ子さんの方からも来てくれるし……。わたしも何やら疲れてしもうた。何一つ手伝わんのに」

母は、痛む足を摩った。

「海はもう寒いやらから気を付けてね。安くしてくれるよ。あの店なら。あそこの主人はうちのことは、よく知ってる人やから」

「あした、サングラス買うて、そのまま行くわ。お母さんの足のことや、お医者さんのこと、みほさんによく頼んどくから、ひどいようなら、いつもの注射してもらおう」といわ

百合は、鎮痛剤を口に含みながら言った。

気圧が下ると起きる頭痛の予感が、目尻の微かな痛みに感じられた。我慢して飲まぬようにしている薬だが、あしたは、どうしても晴れやかな気分ではなかった。

「また、頭痛なの」

母が気遣し気に聞く。薬、これきりにするわ。と、百合は優しく母に言った。

木原時計店を訪ねた時も、ゆうべの頭痛の予感が、まだしつこく目尻に残っているのに百合は、うつつうしさ

と不安を感じていた。これが居残っている限り、いつでもな手段で自分は自分を見放したり、投げ出したりするかわからなかった。また、不用意な言葉で人を傷つけるかもしれない。貝沼との出発には、何よりも平静さが必要だった。パッションよりもそれが大切に思えた。考えてみれば、サングラス一つに奇妙な執念を燃して、場末の見知らぬ店までやって来たこと自体、本当の自分ではないような気がした。

(ケチで結構。これからが大へんなんだ) 百合は自分に言い聞かせて、漠然とした不安やうしろめたさを追払おうとした。(そうよ。今までの自分を覆い隠すのがいいわ。うんと奇抜な……)

「平凡なのばかりね」
百合は、店の隅の台に申し訳けのように並べたサングラスの前で声に出した。男の店員が、機敏に百合の方へ歩み寄って来た。華奢な造りの少年じみた顔に愛嬌のある笑いが浮いている。

「こちらのご主人は丸田町の出身でしょう。丸田町の者が行けば色々便宜を計って下さると聞いて来たんです」
暫くお待ち下さい、と店員は奥へ入って行った。やっぱり突っけんどんな口を利いてしまったな、と、百合は唇を噛む。デパートへ行けばよかった……。

奥から、さっきの店員といっしよに小柄な老人が出て来た。七十才を越えた年寄りらしく、しみの多い顔に金縁の眼鏡が似合う柔和な感じの主人であった。貴金属を扱う店らしく程よく沈んだ照明の中で、老人は百合を穏やかに眺めて丁寧な挨拶をした。

「丸田町も静かな田舎でしたが、今では随分変わりましたでしょうな。近くにちっぽけな飛行場がありましたせいで、大阪市からは外れているのによろしく空襲を受けましたあなた様のようなお若い方には昔話でございませうな」

「空襲のことはよく聞いています。それに、その頃は、三つか、四つになっていましたから。わたしの家の二階を当時若い夫婦が借りていて、その奥さんの方が機銃掃

射を受けて亡くなられたという話も覚えています。その女の人は防空壕へ入らずに二階の窓から、アメリカの飛行機を見物していて撃たれたそうです。その二階家は、のちに祖母の隠居所になりましたが、今でも壁に弾の穴があります」

「不謹慎なことでしたな。その女の人は」

暫く黙っていたあとで、老主人はぼつんと言った。女客が思いがけなくお喋りなので驚いたのかもしれない。それから、ふと話の継穂を変えるように、全く戦争というやつは、人に思わぬ死にざまを持って来るもんですな。と一人言のように呟いた。

「その女の人も、防空壕には、もう倦いていたんでしような。若いうちは、えてして倦き易いもんで、みんな辛抱が足りん。思えば哀れなことでもございましたな。その女の人も」

老人は、きようは、あいにく支配人が出かけていて店の勝手がよう判らんのですが……と断りながら、女店員に言い付けて、奥からサングラスを別に持って来させた。
「年寄りのセンスでは、お役に立ちませぬかな。お前、お相手しなさい」

老人は、ショウケースの上へ眼鏡を並べながら男の店員に言った。

「いいです。どんなでも目を隠しさえすれば」

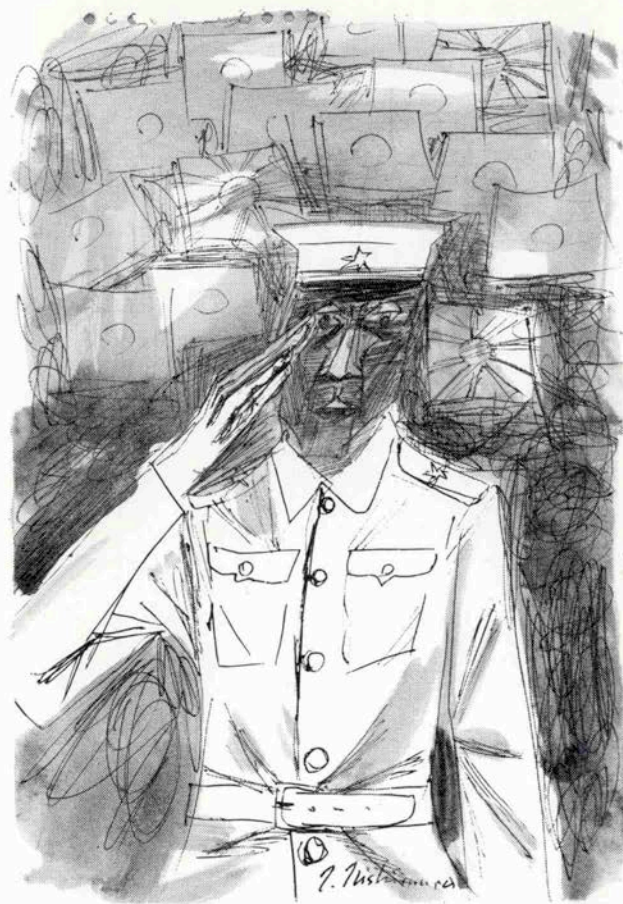
百合は、頭痛の前触れとしていつも起きてくる微かな吐気をハンカチで押えて苦しい物でも見るようにサングラスの群れを見た。その顔から少しの間目を放さずにいた老主人は、

「あなた様は、安倍様とおっしゃいませんか」

と、不意に百合の姓を言い当てた。百合は、自分が今まで名も名乗らずにいたことに漸く気付いて顔が火照った。

「さっきのお話で判りました。安倍様のお方ならぜひおたずねしたいことがございます。ちよっとお掛け下さいませんか」

男の店員は、カウンターの椅子を勧めた。老人も腰を



下した。

「あなた様のお父上は、シベリヤで捕虜になっておられませんかでしたか」

老主人は、柔和な目を気忙しく瞬かせて眼鏡の縁を持ち上げた。

「いいえ。父は病気で十年前に亡くなりましたが、戦争には行っておりません。でも、私の兄がシベリヤにおりました。私が、まだ小さかった頃に帰って来て、両親や祖母達が大騒ぎしていたのをよく覚えています。兄と私は十七も年が違います」

「お兄さんがおいででしたか。私共では、家の内に色々ごたごたしたことがあります、丸田町を出て行く頃はよそ様の御息のことは全く存じ上げずにおりました」
「兄は、早くから東京の学校に行っていましたし、そのまま、学徒動員で出て行きました」

「私共の息子も満州で応召して、そのままシベリヤへ持って行かれまして、未だに戻って参りません。もっとも死亡通知というのには届いておりますが、確かに死んだという証拠がない限りは未帰還でございます。お兄さんはいくつにおなりですか」

「四十九才です」

「それじゃ、うちの息子より少しお年上ですな。わたしは、息子の最後の模様を知っておいでの方から、直接聞くまでは、親として死んだと認めるわけにはまいりません。お前もそうやろ。冬彦」

老主人は、店員にそう呼びかけた。

「これは、孫の冬彦と申しまして、その息子が残した一人きりの子供でございます。いつまでも若造ですが、これでもう三十になります」

百合が店員だと思っていた青年は、しなやかな身こなして寄って来て会

積した。

「わたしは、これを通して、終戦以来、方々へ息子の消息をたずね歩きました。それが、つい最近になって丸田町の安倍さんのお身内の方がシベリヤで息子と同じ場所に居られたと聞きました。生まれた在所ですが丸田町へは、ずっと足が遠のいておりました。近頃はよくあちらから店へ買物に来て下さ

るようになり、わたしも喜んでおるのですが、そういうお客様から教えられて、そんな身近な所にそんなお方がおられたかと、自分の迂闊さに呆れもし、生まれ故郷との因縁を考えたりして、すぐにでもおたずねしたいと思っておりますところで。本当に今までは九州や北海道と遠方はかり歩きました」

「思い出しましたわ」

と、百合は言った。

「母から聞いたのですが、兄はシベリヤから帰るとすぐに、同じ町の人の最後を御家族にお伝えしようとしたがそのお宅は戦争中に町を出られて当時は行方が判らなかつたので諦めたそうです。それから、兄は、すぐに東京の学校へ戻り、東京で就職して、ついこの間転勤で戻って来るまで、殆んど帰りませんでした。あれは、こちらの息子さんのことだったのですね」

老人は、いきなり立ち上った。黙って額を押えた。青年が老人を椅子に坐らせた。やっぱり：と老人は呟いた「冬、やっぱり、お前のお父さんは死んでいた。これで判った。はつきりした」

老人は、やがて、憑物が落ちたようにしつかりした目を上げた。

「冬、判ってよかつたなあ。二十二やつた。お前のおとつつあんが死んだのは：きつとその年や。礼治というこのの父親は、旧制の中学を出ると、その頃はもう丸田町の家が傾いていたせいもあって、一人で満州へ渡り、向こうの建設会社へ勤めておったんですが、あちらで知り合つた身寄りのない娘と結婚しました。子供が生まれるというので、礼治は、丸田町の私共へその女房を送つて来ました。無理して船に乗せても親元で無事に子を産ませたかつたんでしような。身重の妻を置いて、すぐに引き返しましたが、それが息子を見た最後でした。わたしも、死んだ家内も出来る限りのことはして、嫁の出産を待ちまして、これはまあ無事に生まれましたが」

「この方のお母さんはどうされましたか」

「母は、僕を生んですぐに死にました」
冬彦が答えた。

「これが生まれたのも知らずに礼治は召集を受けてすぐに終戦、そのままシベリヤ送りです。ところで、お兄さんのお子達も随分大きくおなりでしょうな」

「兄に子供はありません」

「それはどうも失礼申しました。でも、ご自身立派に生きておいでになるだけで充分でございますよ。わたしは礼治がこれを残してくれたお陰で杖のように連れて息子の消息を訪ね歩きました。親として子の最後を知る義務があるように、これも子として父の最後を知っておくのが勤めやと存じます」

「全く乱暴だったからなあ。おじいさんは。突然、あした北海道へ行く。そう言つて学校なんか平気で休ませるんだから」

「北海道だけでも三度行きました。大へんな旅でしてな終戦間なしの頃は。でも、礼治と同じ部隊の人がいると聞いただけで、その日のうちに出かけたこともありませす。そのせいか、これは今、旅行社に勤めております。昨日、ハワイから帰つたばかりで」

老人は、改めて百合の兄に引き会わせてほしいと頼んだ。

「日曜にお出掛け下されば、いつでもお会いすると思ひます。私はいないかもしませんが伝えておきます。ハワイでは、どんなサングラスがはやっています」

冬彦が選んでくれたのは、赤味がかった薄茶の大きなレンズのものでした。それを掛けると物はみな優しい瞼りを持った。音を立てて、重苦しい吐気が引いていく。「これでもいいわ。このまま掛けて行きます」（つづく）

谷原幸子さんは、大正13年生まれ。10年はど前から同人誌を中心に作品を発表している。現在、「純」同人。昨年の12月「椎の実書房」（大阪）から作品集「やさしい声」を出版。その「跋」で文芸評論家の松原新一氏は「市民的なものの枠にうまくおさまりきれない余剰の部分の不安を巧妙に小説として構成している」とのべている。藤井寺市在住。「帰宅」は12月号までの6回連載です。



＜神戸っ子愛読者サロン＞

★六甲山が緑に包まれ、元町と三宮に若くてきれいな神戸っ子が一杯の五月。どうも久しぶり振ります。お忘れかもしれませんがね。日経・神戸支局時代にお酒を飲んだ小井土です。

先日、日経の文化面に「神戸っ子」が十五周年という小文が載っていたのが目についたので、大変なつかしく思いました。久方ぶりに手紙を差し上げなくてはと思っていました。貴誌の一九七五年の号が四冊ばかり偶然目につきました中西両伯、竹田、元、記者、小泉編集長の「後記」などの写真、名文、名画がわがなつかしの神戸を思い出させてくれました。

「神戸っ子」を拝見すると、神戸は常に青春の町であるという感じを強く感ぜられました。小泉御兄妹もお元気で活躍の様子、何よりです。そして神戸を愛する長期の耐えざるご努力に敬意を表させていただきます。

小生も神戸を離れてからは永田町住まひ、ニューデリー、ソウル勤務、この間にカノ田中角栄先生と同行のワシントン、ニューヨーク訪問、地中海沿岸のモロッコ、アルジェン、スイド、ペイルト、ヨルダン、スーダン、イエールト、など色んなところに住み旅をしました。が、モロッコ、チュニスなどと共に、思い出されるのはミナト神戸。若い時代を酒とともに過

した町がやはり一番心の底に残っているようです。毎晩のように行った「蛸の壺」木村さん夫妻には迷惑のかけ通しで、他の方や店もそうですが今もなつかしさと共に当分頭が上らぬという思いです。

ソウルに着任して早や二年。政治の国ですが、小生にとっては酒の国でもあり、身体に傷あるのを承知の上で酒饗業中。特派員仲間での番付は上位ですが、一生一本とは縁がありません。

先日は神戸まつりが日本の紙面で大きく取り上げられました。が、ニュースの抜粋が「暴走」だったとは感心しません。わが同僚のカメラマンを思うと残念至極。

感情優先、理性喪失の時代の子ども時代をリードする若者が主人公であって欲しいですね。わが愛する神戸がなつかしく一筆したためました。

▲ソウルにて 小井土有治
☆びっくりしましたねエ。日経の神戸支局が、朝日会館の西隣り神戸証券取引所の頃。まだ「蛸の壺」が、元町駅の南露路にあつたころの威勢のいい経済記者さん。相変わらずお酒が強いようですね。ソウルで神戸っ子十五周年と神戸まつりの記事をご覧になるとは、世界はせまいですね。

小井土特派員のニュースは、神戸でもちゃんと言っていますよ。ガンパッテネ、▲編集部
★まつりの日の雨は、心なきもの仕業に艶れたびとへのレクイエム。フィナレのバレードをけげに一生懸命つめた神戸っ子によく頑張ったねと、ひと言声をかけたい。▲編集部 加藤弘之

☆撮影するひと、バレードのサソバを踊る神戸っ子も一生懸命。雨の中を長時間見物された皆さんにもご声援あげてください。心からお礼を申しあげます。

▲編集部
★札幌にもさぬきうどんの店が、中心街にできて(御主人は関西

の人らしいのに)あまりながつつきがせず、あるいは、そば、ラーメンという味嗜味は結局その濃さに味方とするものがあるものでしょう。ごろ寝していると神戸祭りのニュース。五月中旬というのにあまり気温があがらず公園に行く気もせず雑誌などのひろい読み。トシです。

▲札幌市 楠本 大



▲無事、Kobe returns 着工出来

★無事、Kobe returns 着工出来ました。いろいろありがとうございます。今後、いろいろ問題があると思いますがよろしくおねがいします。小生このところ、世界の街の集客や、パザール等を、みて歩きたい欲望にかられ、仕事の合間をぬって脱出しております。

写真の島はアテネより、船で二〇時間程のカントリーニ島です。急斜面に建っていて、他人の屋根がバルコニーや、道になっています。いへん楽しいや、道になっています。石灰汁で白く塗っていて、青い空をつきぬけるようです。

▲安藤忠雄

★神戸まつりの原点をみつめる時「この方々の発言と発想すばらしいと思っております。みんな踊ってみたいのは同じです。だからそういう場がふくれでも、ふくれでも可能なように、場がほしい」に共感します。

▲丸本明子

KOBE POST

★神戸光風会が、このほど会員が、各地の広範囲にわたってきたため名称を「兵庫光風会」と改め事務所代表も若本隆喜さん方から角卓さん方に移りました。
〒658神戸市東灘区住吉町赤塚山一八七-一ノ一角卓方 ☎078(842)2800

★神戸のカメラマンの三人展が、七月十一〜二十日大阪マルビルのフジフォトサロンで開かれます。堀内初太郎「逸礼の心と眼」小山保「山村」さんさん」竹内広光「各駅停車」

★邦楽八長唄の今藤尚之さん▲神戸出身が東京で転居。新任所は東京都世田谷区弦巻一ノ二八〇一九サイタマシヨウ2010号
154 ☎4270五三五

★道化座のいえノイエ七月公演は唐十郎作「首塚犬」演出/須永克彦七月三・十七・二十四八土午後七時より、四月十一、十八、二十五八日午後二時/いえノイエ八月二日新入会員八〇円生田区三宮町三丁目二六/三國鉄飯神元町駅東口浜側、三宮センター街西端北風ビル五F ☎3915二七

★劇団「七」が第五回公演に大橋喜一の「銀河鉄道の恋人たち」を、戸野本和久演出で、七月七日、八日神戸文化ホール八午後六時一五分より八〇〇円に於いて上演します。

★フットグラファー藤原保之さんが、このほど東京麹町にTOKYO OFFICEを、また神戸・六甲には新たにKOBÉ OFFICEをオープンしています。

creative boutique ジン・フオトグラフィA KOBÉ 神戸市灘区永手町5ノ7/8第3六甲センタービル ☎078(842)2111
2 A TOKYO 東京都千代田区二番町1番町イム102 ☎03(261)0227

六甲山上ムーンライト 7月中旬オープン



ディナー・立食・ガーデンパーティーのご予約承ります
ビーフフォンデュ、バーベキュー他、一品料理

六甲山上ムーンライト/六甲オリエンタルホテル西100m

TEL 891-0497~8(直通)
TEL 331-9554・0886(昼間)

レストラン

ムーンライト

三宮・生田新道
TEL (331)9554

輸入洋酒専門店

春屋

HARUYA

WHISKY.WINE.SPIRITS

センタープラザ

TEL (331)4973・3310

暑中お見舞い申し上げます 1976年 夏



アルカンシエル

生田区中山手通1
シャンティビル
TEL 242-3507



サントフラット
SANTOFLAT

生田新道
シンミチビル5F
さむらい TEL 321-4567



Cordon
Bleu

コルドンブルー

生田区中山手通1
エビラビル4F
TEL 332-2050



スギハラ

杉原マリ子

生田区中山手通1
大和ナイトプラザビル1F
TEL 241-3879